北海道おといねっぷ美術工芸高等学校　令和６年（2024年）３月22日　発行

学校だより

NO. 5

〒098-2501
北海道中川郡音威子府村字音威子府181番地1

電話　01656-5-3044　FAX　01656-5-3838

e-mail　otokoh@seagreen.ocn.ne.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.otoineppu-h.ed.jp/

「夢を語り感動があふれる学校づくり」

校　長　菊　地　裕　幸（きくち　ひろゆき）

まだまだ朝晩の冷え込みがありますが、季節は確実に進み、春の足音が聞こえ始めていると感じる今日この頃ですが、保護者の皆様並びに地域住民の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、去る３月１日、本校体育館を会場に第38回卒業証書授与式が挙行され、36名の卒業生を送り出すことができました。36名の３年間の学びによる、本校のスクール・ポリシーで示す育成を目指す資質能力（美術・工芸の基礎的・基本的な知識や技術・技能、主体的に学ぶ姿勢と豊かな自己表現能力、創作活動を通して豊かな心、作品への問題発見能力と課題解決能力、確かな学力）を着実に身に付け、想像力が育成された姿には、初めて校長として卒業生を出した私にとって、とても感慨深いものとなりました。それぞれが向かう次のステージでも活躍することを心から願っているところであります。その卒業式の式辞で述べた一部を次に紹介します。

「今年の七月、平成十六年（西暦二〇〇四年）以来、二十年ぶりに発行される新紙幣。その新一万円札の肖像に選ばれた、近代日本経済の父と呼ばれる渋沢栄一の『夢七訓』という言葉。

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。

幸せな人生を送るためには、まず夢を持つこ

本校のありたい学校の姿として、「夢を語り感動があふれる学校づくり」をスローガンに、学校の教育活動を行っております。次年度は制服選択制の実施や各種連携事業の強化、高校のさらなる特色化・魅力化の推進に努めます。今後とも、皆様の期待に応えるべく教育活動を教職一同取り組んでまいりますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

●２名の教職員が異動します

【転出】
近　江　建　心　教諭　国語
「北海道小樽桜陽高等学校（教諭）」

【退職】
福　田　悠　野　教諭　美術／工芸

「とりあえずやってみない？」

教諭　近　江　建　心

この度、3月末をもちまして後志管内の小樽桜陽高校へ異動となりました。

おと高では7年間勤務しました。担任を経験し、生徒指導部長も務めました。大学卒業間もない、世間知らずの私がここまでやってこられたのも、生徒・保護者・地域のみなさまに支えられてのことです。本当にありがとうございました。

私がおと高に赴任してから変わらず抱いている思いがあります。それは生徒のみなさんの、制作に「真剣に取り組む」姿勢への思いです。内なる葛藤・思想を表現した鬼気迫る美術作品。果敢に挑戦し続けた先に創造される思いやりの溢れる工芸作品。一人ひとりの思いや個性が光る多くの作品を目の当たりにしました。なにより、真剣に取り組むその眼差し、作品への思いを活き活きと語るその表情が素敵でした。その姿はとても眩しく、私の日々の原動力となっていました。

このような、一つのことに「真剣に取り組む」という機会には、大人になるとなかなか恵まれません。だからこそ、おと高で経験してほしいのです。その経験は、あなたが大人になった時の支えにきっとなります。そしてその経験は、なにも美術工芸でしか得られるものでもありません。「真剣に取り組めるものが美術工芸だったらいいな。」くらいが私の思いです。なんだっていいんです。高校生活を振り返ったとき、「自分は〇〇に真剣に取り組んだ」といえるような経験を「とりあえずやってみよう」の気持ちで挑戦してみませんか。応援しています。

最後になりますが、おと高で働くことができて本当に幸せでした。多くの素晴らしい出会いに恵まれました。この場を借りて深く謝意を申し上げるとともに、おと高の今後のさらなるご発展をお祈り申し上げます。

「生きるとは」

教諭　福　田　悠　野

この度、教員を退職し、新たな人生をスタートさせることに決めました。

私にとっての教員生活3年間は、音威子府美術工芸高校での教員生活3年間でした。美術工芸の教員として、本校の生徒たちと向き合えた日々は、心の底から幸せでした。私の大好きな美術工芸に、大まじめに情熱を注いでくれる生徒が沢山いました。私は強運の持ち主です！

芸術科目を学ぶ理由は何でしょうか。美術工芸の知識や技術が無くても、十分生きて行けます。では、生きるとは何でしょうか。心臓を動かし、息をしていれば生きていると言えるのでしょうか。

芸術は、答えの無い問いについて考え、自分だけの答えを導き出す分野です。どう感じ何を思うか、他者に何をどう伝えるか、幸せとは何か、生きるとは何か。

情報に翻弄され、変化の絶えない現代社会で、自ら思考し生み出す力は大変重要です。本校には、自分に向き合い、自分にとっての価値を追求し、制作に繋げるための環境と仲間が揃っています。そして、制作に真剣に向き合う生徒たちがいます！私は教える立場ですが、生徒からは多くを学ばせてもらいました。

私は自分の人生に向き合い、新たな道へ進む選択をしました。人生一度きり、自分次第です。正解は誰にも分かりませんが、後悔はありません。生徒の皆さんには、精一杯自分に向き合って生きて欲しいです。その力が、皆さんにはあります！

最後に、教職員の皆様、保護者の皆様、音威子府村で出会った皆様に感謝申し上げます。私が自らの人生に向き合えたのは、周囲の方々の支えがあったからです。ご迷惑をおかけすることもありましたが、音威子府村の村民として働かせて頂けたこと、大変幸せでした。ありがとうございました。

あらためておと高生に求めるもの ～最後の１年をどう過ごしてほしいか～

第３学年担任　教諭　河　野　行　宏

３年間の担任をしていて、一番嬉しかったことは、多くの生徒たちが前向きに高校生活を送ろうとしていてくれたことです。特に、制作活動と進路活動については本当に一生懸命に取り組んでくれました。制作活動では授業、部活動、自主制作を通して素晴らしい木工芸作品、美術作品を作ってくれました。その他にも写真、動画、音楽活動でも、さすがおと高生というべきかたくさんの芸術表現を見せてくれました。学年が上がるにつれ、それぞれの個性が際立ち、卒業制作では技術とセンスと思い出の詰まった作品を制作してくれました。進路活動では大学、専門学校、就職など、それぞれが自分の将来を真剣に考えて決断してくれました。面接練習や小論文対策、デッサンや共通テスト対策など、進路指導はとても大変でしたが、生徒たちは進路実現のために頑張っていました。結果がうまくいくことも、いかないこともありましたが、高い進路目標に挑戦するなど、おと高生の新しい可能性を示してくれたと思います。

新３年生にはこれから1年、進路実現と制作と向き合い、もっと自分らしさを追求していってほしいと思います。高校生活最後の1年になります。辛いことや後悔することもあるかもしれないけれど、「あの時の最善を尽くした」と思えるように、全力で出し切っていってほしいです。予想外のトラブルなど色んなことがあり、スケジュール管理など大変な思いをすることがあるかもしれませんが、乗り越えられるように教員たちもサポートするので頑張ってほしいと思います。

最後に３年生担任として3年間素晴らしい生徒とかかわることができ、とても幸せだったと思います。一人一人個性的で、性格や趣味もことごとく違いましたが、学校祭や見学旅行といった大きな行事のさいは結束した姿を見せてくれました。生徒指導や担任との衝突もありましたが、３年生のことを思ってのことでした。それぞれの進路先で思いやりの行動をとりながらも、おと高生らしく個性を爆発させて生きていってほしいと思います。今後のそれぞれの進路先において更なる活躍を期待しております。